

**市政に
全力投球!**

市政ニュース2018年秋号

熊本市議会議員 上田よしひろ

上田よしひろ

上田よしひろ事務所

〒862-0975

熊本市中央区新屋敷 3-7-5

TEL 096-335-8100

FAX 096-335-8101

e-mail ueda-minsyu@sea.plala.or.jp

猛暑・自然災害!お見舞い申し上げます。

日頃からのご指導・ご支援に感謝申し上げます。夏の猛暑から秋へと季節が移り、過ごし良くなりましたが、本年は「大阪北部地震」、「西日本豪雨」、「北海道胆振東部地震」、更には台風襲来による記録的な集中豪雨が、全国各地に大きな被害をもたらしました。犠牲となられた方、被災された方々に対し、お悔やみとお見舞いを申し上げます。私たち熊本も2年半前の熊本地震の経験から、被災地の皆さんのご苦勞を思うと、何とか早期復旧・復興を願うものです。

そのような中、9月定例会市議会が9月3日開会し、26日間を会期に行われました。9月議会は、予算・決算案件10件、条例8件をはじめ計51件について議論しました。

9月議会開会!

一般会計では、熊本地震関連として「熊本城天守閣復旧・災害公営住宅建設」等に係る経費4億6千万円余を含み、合計15億2千万円余の増額補正予算を議論し、可決・承認しました。その中には、西日本豪雨被害等への支援に加え、大阪北部地震の際、児童が学校施設ブロック塀の倒壊で死亡したことを受けての「学校・市有・民有」施設のブロック塀の安全対策のための経費として、5億6千万円余が含まれています。

あらためて、大規模自然災害がもたらす脅威に対する備え「防災・減災の取組み」を更に推進しなければならないと痛感させられました。



失職議員の復職?

また、今議会では「番外編」として、本年3月26日に「議員の兼業禁止に抵触し、失職した女性議員」が、県の裁定により復職が認められ議会へ参加しました。熊本市議会の総意としての失職処分の決定が覆ったことに対し、憤りを覚えるとともに、引き続き、議会全体として県へ対応することしました。加えて、当該議員の「市職員等に対する不当要求行為」についても、引き続き追求する決議も、開会当日に行いました。



あめ玉くわえ質疑?

さらに、議会閉会日の9月28日には、議会運営委員会に出された請願を否決したことに対する質疑の際、あめ玉を口に含んだまま登壇した女性議員に対し、議会への謝罪を断ったことを発端に議会が紛糾しました。

議会休会・議会運営委員会開催・懲罰委員会開催を繰り返す、結局、会期を大幅に延長した午後7時10分に閉会するに至りました。当該の女性議員からは「風邪気味でどの調子が悪い中、議会運営に迷惑のかからないため、のど飴を口に含んだもので、謝罪するつもりはない」と最後まで申されていました。しかし、議会は市民のための議論を真剣に行う神聖な場であり、飲食禁止という規定はないものの、口に何かを含んで登壇・発言することは、もつてのほかであると考えたとともに、一般常識の範疇であると考えます。

市民の皆さんからは、「赤ちゃん議員」から、今後は「あめ玉議員」と目に映ったのではと思います。



来春の統一自治体選まで、あと半年!

9月議会を終え、いよいよ来春の統一自治体議員選挙まで「あと半年」となりました。あらためて月日の経つ速さを実感しています。政令市移行後、2回目の区割り選挙であり、各区の議員定数についても、中央区定数11名のままで行うことが決まりました。本年8月13日、当時の立憲民主党県連の常任幹事会で、県連運営に対する意見の相違から、立憲民主党を離党し、無所属での闘いを想定しています。市民の皆さんのため、特に支えただく皆さんに対し役に立つことを目指し、今後も全力投球して参ります。

9月議会一般質問

9月7日、11度目の一般質問を行いました。当日は、平日の午前中にも関わらず、数多い方に傍聴に駆けつけて頂き、心から感謝申し上げます。質問内容は、出来るだけタイムリーで、将来を見据えた市事業に対する要望事項を含めた9項目を行いました。

- 1 連携中枢都市圏での取り組みについて
- 2 防災・減災の取り組みについて
- 3 「くまもと未来人材育成塾」の取り組みについて
- 4 SDGs(持続可能な開発目標)に対する取り組みについて
- 5 新たな奨学金制度の取り組みについて
- 6 適正な水道事業に向けて
- 7 2019年国際スポーツイベントへの対応について
- 8 児童虐待防止に向けた取り組みについて
- 9 白川中校区の自転車マナーアップの取り組みについて



2. 防災・減災の取り組み

本年7月の西日本豪雨災害では、15府県という広範囲で、河川が氾濫するなど200名を超える方々が、犠牲・被災しました。質問では、被災自治体が発令する避難準備情報・避難勧告・避難命令と言った「避難情報の発令決定の仕組み」と「住民への避難情報の伝達方法」について、更には、被災した際の一時避難所での「防災倉庫の備蓄品管理」について、熊本市の現状を尋ねました。

避難情報の発令決定については、河川ごとの基準観測所の設定水位情報や、気象庁の降雨予測などの各種データを収集・解析し、市長判断で行っている。2020年度からは、現在の河川水位情報・気象情報・土砂災害情報などを一括管理できる「新防災情報システム」を構築し、より迅速かつ的確な対応に努めることが答弁されました。

また、防災倉庫の備蓄品管理については、熊本地震以降、各防災倉庫でバラバラに備蓄しているものを、数年かけて標準化することが答弁されるとも、

これまでの「家庭内備蓄の推奨目安3日だったのが1週間」と変更されていることが明らかになりました。

7. 2019年国際スポーツイベントへの対応について

いよいよ来年に迫った「ラグビーワールドカップ」と「女子世界ハンドボール世界選手権」について、大会の受入準備の状況や、その熊本市の推進体制などについて尋ねました。

ラグビーが、来年10月6日にフランス対トンガ戦、10月13日にウェールズ対ウルグアイ戦が行われ、

また、女子ハンドボール世界選手権が、来年11月30日～12月15日の16日間行われ、この2つの国際スポーツイベントは、熊本地震からの復興を幅広くアピールするためにも成功させなければなりません。

熊本市では、県と山鹿市・八代市と合同での事務局体制で、両大会のボランティア募集、宿泊施設の対応など行われているとの答弁でした。この2つイベントで来熊された方々が、「再び熊本を訪れたい」と思われる「おもてなし的取り組み」も強く要望しました。

9. 白川中校区の自転車マナーアップの取り組みについて

地域課題として、白川中校区(大江小・白川小)で継続課題ある、児童・生徒の通学時における安全対策としての「自転車マナーアップ」の取り組みについて、熊本市と県警・県教育委員会などとの連携や、重点地域として指定し有効な取り組みに繋げるための熊本市の考えを尋ねました。

白川中校区には、8つの高校、2つの大学があり、8高校の合計で「生徒数で約7,400名、自転車通学生が約4,600名」と、朝の通学時間帯では、実に約4,600台の自転車が集中しており、今後、熊本市として8高校への交通安全教室の実施、更に今後、県警・県と市の教育委員会などの関係機関との連携強化を図られることになりました。

